

平成30年度「水・土壌環境保全活動功労者表彰」受賞者一覧(敬称略)

推薦者	団体	個人	主な功績
北海道	ほっかいどうきたみほくとこうとうがっこう 北海道北見北斗高等学校サイエンスクラブ		<ul style="list-style-type: none"> ・ 2004年から常呂川における水質調査及び水生生物調査を開始し、現在では、年4回14カ所の調査を実施している。 ・ 2017年、2018年は市民向けの「水ミーティング」を産官学連携で実施し、常呂川水系における水利用や国際的な視野を含めた講演やプレゼンテーションを通じて水環境保全意識の向上に努めた。 ・ 海洋ゴミや世界の環境問題をテーマに講演会を開催。 ・ 常呂川流域の河川におけるごみ調査の実施。
富山県		かわぞえ のりみつ 川添 憲三	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昭和47年(1972年)頃から県内各地の河川において、水生生物調査を継続して実施し、高等学校生物教諭として在職中は、生徒とともに調査に取り組んできた。 ・ 退職後は、NPO法人富山県自然保護協会に所属し、水生生物調査を引き続き実施するとともに、水生昆虫の分布と河川環境の変遷について調査するなど、県内の水環境の実態の把握に努め、水環境保全に貢献した。 ・ 上記の調査結果については、協会報への掲載や、冊子にとりまとめて出版するなど、啓発普及にも貢献している。
富山県	おやこ しぜんきょうしつ 親子わんぱく自然教室		<ul style="list-style-type: none"> ・ 園児～中学生までの親子を対象とし、南砺市の赤祖父川や勸行寺川、氷見市の万尾川など、県内各地において、水辺の生き物調査やイタセンパラの観察などの活動を継続的に行い、川との関わりや自然の大切さを学ぶ環境学習を長年にわたって実践している。 ・ 活動には、毎年延べ600名以上の親子が参加しており、地域の水環境保全活動の推進や環境意識の向上に大きく貢献している。
山梨県	やまなしけんかんきょうけいりょうきょうかい 山梨県環境計量協会		<p>山梨県内の河川で水質ワースト1である、濁川の水質調査を行政と協働・連携し、平成16年より今日まで十余年にわたり実施することで、水質の把握に大きく貢献している。</p> <p>さらに、専門家を講師に招いた「環境講演会」を平成2年より参加費無料で開催し、時代折々の公害問題、法律の改正、環境問題、新技術の紹介等、水・土壌環境保全に係る啓発活動を永年にわたり実施している。</p>

平成30年度「水・土壌環境保全活動功労者表彰」受賞者一覧(敬称略)

推薦者	団体	個人	主な功績
長野県		よしだ ふみお 吉田 富美雄	<p>吉田氏は昭和51年4月に長野県職員に採用され、長野県松本保健所等で水質や大気等の環境行政等の業務に携わった。平成63年度から3年間は長野県衛生公害研究所(現在の長野県環境保全研究所)食品衛生部で、毒キノコに関する調査研究等に取り組んだ。平成3年度から6年間は以前の経験を生かし保健所の環境衛生課等に勤務し、水質や大気、廃棄物行政に携わった。平成9年度以後は再び研究所の水質部、環境保全部、水・土壌環境部において湖沼水質保全計画に係る諏訪湖等への流入汚濁負荷量の解析や水質の将来予測、流出水浄化水対策の実証実験などに携わり、長野県における湖沼の水質保全対策に大きく貢献した。</p> <p>また、農薬をはじめとする化学物質のGC/MSによる分析に高度な技術と豊富な知識を有し、自ら分析法の開発等に取り組むだけでなく、ベテラン職員として後進の指導に当たり、技術の伝承に精力的に努めた。</p>
長野県		あさの きよし 浅野 清志	<ul style="list-style-type: none"> ・飯田市の環境行政において実施する河川水及び地下水等水質の調査に助言を行っている。 ・飯田市美術博物館の客員研究員として講座を担当し、地域の水環境の普及啓発活動に尽力している。 事例)美術博物館夏祭りで「名水の味くらべ」を実施している。2013年から継続中 ・「平成の名水百選」にも選定されている『観音霊水』の再評価を行い、地域の保全活動のきっかけを作った。
愛知県		ふくはら しずか 福原 静	<p>平成19年4月に生活排水クリーン推進員に着任し、以降12年半にわたり地域の生活排水対策に係る啓発活動において中心的な役割を担っている。自治区事務所にて、地域住民や他の地区の生活排水クリーン推進員と協働して、廃食用油を使用した石けんづくりを自ら実施する他、地域住民を対象とした石けんづくりの体験講座を実施するなど、廃食用油を使用した石けんの普及活動に取り組んでいる。</p> <p>また、廃食用油と凝固剤を使用したろうそくづくりを実施するなど、新たな廃食用油の利用方法の検討にも取り組んでいる。</p> <p>さらに、製作した石けんを水切りネットや啓発リーフレットと合わせて地域の清掃活動やふれあいサロンの際に配布し、家庭でできる生活排水対策の啓発を実施している。</p> <p>大府市内の生活排水クリーン推進員の中でも任期が長く経験が豊富なため、全体研修会の場において他の生活排水クリーン推進員に啓発方法を教えるなど、他の模範とするところである。</p>

平成30年度「水・土壌環境保全活動功労者表彰」受賞者一覧(敬称略)

推薦者	団体	個人	主な功績
愛知県		ほった はるみ 堀田 春美	平成14年に東浦町生活排水クリーン推進員に着任し、現在に至るまでの17年間、生活排水クリーンキャンペーンにおいて、家庭からの生活排水が河川や海にもたらす影響及びその対策について、住民に対して啓発及び普及に努めている。 また、町内の河川の水質調査を2か月に一度行っている。
滋賀県		うえだ かずよし 上田 一好	昭和46年に県庁入庁以来37年間一貫して環境行政に従事し、滋賀県の環境保全体制の基礎作りに多大な役割を果たされた。そのうち、水質・土壌環境行政の業務に21年間携わられている。 滋賀県庁在職中は、公害課、公害規制課から環境室において、PCB問題、六価クロム問題、我が国唯一のアンチモン公害をはじめとした、当時の様々な公害問題の解決に尽力されている。 加えて、昭和52年の淡水赤潮の発生により、琵琶湖の富栄養化対策が県政の重要課題となった時、氏が中心的役割を果たしながら琵琶湖水質に関する各種の検討を行なわれ、県が昭和54年に「滋賀県琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例」を制定することに尽力された。この条例は、我が国初であると同時に世界でも先駆的な規制となる窒素・リンの排出規制等を定めた条例であり、在職中の功績は顕著である。
京都府	あやべしりつかんばやししょうがっこう 綾部市立上林小学校 あやべしりつかんばやしちゅうがっこう 綾部市立上林中学校		綾部市立上林小学校、上林中学校は、一貫校として連携しながら水環境保全活動を行っている。 水生生物調査は、年2回市民団体(上林川を美しくする会)や関係機関と連携し行っている。 上林川の水生生物を採取、調査し、川の水環境の実態を把握するとともに水環境の保全について学ぶ場になっている。次代を担う子どもたちが、ふるさとを流れる上林川に親しみ、学ぶことで、水環境の意識の高揚が図られるとともに、川と水と人との関わりや故郷を大切に作る心の育成につながっている。また、水生生物調査を通じて学習した水環境保全の取組は、地域住民等が参加する文化祭「上林フェスティバル」で発表するとともに展示も行い、在校の児童生徒だけではなく地域住民や広く市民に対して、河川の水環境保全の大切さを発信するなど水環境の啓発普及が図られており、綾部市の水環境保全に貢献している。

平成30年度「水・土壌環境保全活動功労者表彰」受賞者一覧(敬称略)

推薦者	団体	個人	主な功績
鳥取県	ゆりはまちょうりつほくめいちゅうがっこう 湯梨浜町立北溟中学校 かがくぶ 科学部		<ul style="list-style-type: none"> ・北溟中学校科学部の活動は、東郷町誌(現湯梨浜町)によると昭和48年の東郷池のフジツボに関する活動が記録されているなど長年にわたって、歴代の生徒が東郷池の生物に関する数多くの調査研究を行っている。 ・近年は、東郷池のミジンコ類に着目した水質調査をはじめ、地域で問題となっている外来生物のスクミリンゴガイの生態調査、さらには食物連鎖を利用した駆除方法を検討するなど、主に東郷池をフィールドに調査研究を続け、その成果を発表会や様々な機会を通じて情報発信し、地域の水環境保全に大きく貢献している。 ・平成24年度には地域で東郷池を美しく守っていこうとする環境美化活動の一つである「東郷池を守り育てるアダプトプログラム」に同校科学部として登録し、毎年の清掃活動に多くの部員が参加している。また、平成28年度からは民間の環境保全団体(東郷池メダカの会)が主催するボランティア活動に参加し、東郷池に生息する生き物の調査やヨシ帯の再生事業に地域の一員として取り組んでいる。さらに、鳥取県と湯梨浜町が東郷池の生物多様性保全として共同で実施している在来水生植物のセキショウモの保全再生事業では、育苗や移植に取り組むなど行政が推進する環境保全活動を行い、機関紙などで啓発活動に取り組んでいる。 ・現在に至るまで5年以上にわたる水環境をテーマにした調査研究や地域の環境保全活動への参加、また情報発信を行うことにより地域でも注目され、住民への環境保全意識の啓発に繋がるなど、地域の水環境保全に貢献しており、今後の活動が期待される。
徳島県	みましりつえはらきたしょうがっこう 美馬市立江原北小学校		<p>学校近くを流れる「曾江谷川」で、毎年夏に3, 4年生が参加し、川の水質や水生生物を調査するなど、地域の水環境保全・普及啓発に貢献をしている。</p>
徳島県	みどりねっとほうざき 水土里ネット芳崎		<p>平成23年度から苅屋川等2カ所で地域住民が参加し、川の水質や水生生物を調査するなど、地域の水環境保全・普及啓発に貢献をしている。</p>

平成30年度「水・土壌環境保全活動功労者表彰」受賞者一覧(敬称略)

推薦者	団体	個人	主な功績
香川県	あやがわちようりつはゆかししょうがっこう 綾川町立羽床小学校		身近な川への関心を高め、水環境保全活動に理解を深めることを目的に、総合学習の一環として毎年1回(6月～7月)に綾川上流付近で水生生物調査を継続して行っており、11年目を迎える。3、4年生約30名を中心に、県環境アドバイザーや県関係者、綾川町住民生活課職員とともに現地を訪れ、そこに生息する生き物(指標生物)を捕獲・調査している。結果は県のホームページにも掲載し、水環境保全啓発活動にも貢献している。
香川県	さかいでしりつふちゅうしょうがっこう 坂出市立府中小学校		身近な川に関心を高め、水環境保全活動に理解を深めることを目的に、総合学習の一環として年1回(7月～9月)に綾川下流付近で水生生物調査を継続して行っている。毎年5年生が、県環境アドバイザーや県関係者、坂出市役所共働課職員とともに現地を訪れ、そこに生息する生き物(指標生物)を捕獲調査する水質調査をしている。結果は県のホームページや学校ホームページにも掲載し、水環境保全啓発活動にも貢献している。
福岡県		もりべしんいちろう 守部進一郎	毎年継続して金辺川水系の水生生物調査を行い、年1回調査報告書を作成し、水環境の実態把握を行っている。 町内各小学校の環境学習においてボランティアの講師を務め、児童への水環境保全に関する啓発活動を行っている。 香春町環境審議会副会長として、その学識を生かし助言することで、本町の環境政策に大きく貢献している。
福岡県	まつむらさんぎょうかぶしがいしゃ 松村産業株式会社		地域の環境保全に携わる企業として年5回の河川清掃や河川公園・溜池の除草を行い水環境の保全に貢献している。 金辺川を楽しむ会と共催で町内小学生による「サケの稚魚放流会」や夏休みに実施する町内外の小学生を対象とした「環境学習めだかの学校」を開催し、地域の水環境に親しむ学習を通して、水環境の保全啓発活動を行っている。

平成30年度「水・土壌環境保全活動功労者表彰」受賞者一覧(敬称略)

推薦者	団体	個人	主な功績
大分県	<small>こうえきざいだんほうじん</small> 公益財団法人 <small>おおいたけんかんきょうかんりきょうかい</small> 大分県環境管理協会		<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度から、若い世代に対し水質汚濁の原因の一つである生活排水の処理について理解を深めてもらうことを目的に、県内の小学校で出前方式の環境学習を実施している(現在までに延べ189校で実施)。 ・平成30年度からは出前授業を実施した小学校を対象に、水環境と浄化槽をテーマとしたポスターコンクールを開催するとともに作品展示を行い、県民の水環境保全意識の高揚を図っている。 ・平成27年から毎年、浄化槽の日には、大分市中心部において、協会役員等が水環境保全のリーフレット等を配付し、県民への普及啓発も実施している。 ・「緑の力で川の美しさを取り戻そう」をスローガンに水質浄化などの目的で、平成12年から平成24年までの12年間で、県内の河川流域においてモミジ、ヤマザクラなどの広葉樹18,765本を植樹している。
土壌環境課		<small>つかはら しんいちろう</small> 塚原 伸一郎	<p>塚原氏は、平成14年から平成20年にかけて「地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会」(当時は環境省後援)の事務局長として本研究集会を7回開催し、土壌・地下水汚染とその防止対策の知識の普及に貢献している。</p> <p>具体的には、塚原氏の事務局長就任までの本研究集会は、日本水環境学会、日本地下水学会、及び社団法人土壌環境センター(現在は一般社団法人)の3団体共催であったが、塚原氏は地盤工学会及び廃棄物資源循環学会を主催団体として迎え入れ、また、それまで1年半ごとの開催を毎年開催に変更したことにより、より多くの学会会員等への知識の普及を図っている(このため、従来、311～578名程度であった参加者数は、塚原氏が事務局長を務めた第9～14回は650～750名へと増加し、1年当たりの参加者数は2倍程度に拡大した)。</p> <p>これらの改革により、本研究集会は、産官学を問わず広い分野の研究者や技術者等が集い、新しい技術や知識の共有を図ることのできる、我が国における唯一の地下水・土壌汚染に関する研究発表及び討論の場となり、また、この後、現在に至るまでの10年にわたる継続的な開催の基盤が確立されたものである。</p> <p>なお、塚原氏の尽力に対しては、大学、国立環境研究所等の研究機関や、土壌・地下水の調査や対策に携わる企業の技術者等からも、多くの謝意が寄せられている。</p> <p>このように、塚原氏は、本研究集会(非営利活動)の事務局長として、本研究集会の拡充と継続的開催の基盤を確立し、もって土壌・地下水汚染とその防止対策の知識の普及に貢献したものである。</p>

団体 11

個人 8

合計 19